

腫瘍内科 NEWSLETTER

第5号

第5回がん治療病診連携セミナーを開催しました

日時：2014年11月19日(水)
場所：TKPガーデンシティ仙台

高齢化社会を迎えた日本ではがん患者が増加の一途をたどり、質の高いがん治療を継続的に行うために、東北大学病院のようながん診療連携拠点病院と地域医療の担い手である先生方の協力が欠かせません。そこで私たち東北大学病院腫瘍内科では地域の病院や診療所との連携によりがん診療をさらに円滑に行うために、「転移性腫瘍*の病診連携」をテーマに第5回がん治療病診連携セミナーを開催いたしました。

*ここで言う転移性腫瘍は、切除不能進行または再発癌とほぼ同義です。

基調講演 悪性腫瘍（転移性腫瘍）診療における病診連携について

東北大学病院 腫瘍内科 講師 高橋 雅信

● 東北大学病院腫瘍内科の紹介

- ①消化器系の悪性腫瘍を主体に、その他頭頸部がん、乳がん、泌尿器がん、肺がん、造血器腫瘍、原発不明がんなどを幅広く診療している。原発不明がんは進行がんの数%存在し、東北大学病院では腫瘍内科が治療を担当している。
- ②外来患者数は年間約8,500人、入院患者数は年間約8,000人の診療実績がある。

● がん分子標的療法の現況と病診連携における課題

罹患数の増加とがん薬物療法の発展による治療成績の向上により、がん治療を行う進行癌患者数は増加している。がん薬物療法の発展には分子標的治療薬の開発が大きく寄与している。例えば大腸癌では1次治療から4次治療まで分子標的治療薬の投与が推奨されるようになり、平均的な予後が30ヶ月を超える時代となっている。分子標的治療薬は高血圧、心毒性、血栓塞栓症、消化管穿孔、間質性肺炎、皮膚毒性、など従来の抗がん剤とは異なる副作用の発現が一定頻度で発生するため、これらの副作用対策として早期発見とそれに対する適切な支持療法が必要である。多くの場合、がん薬物療法が外来で行われるので、この副作用対策にはかかりつけの病院との連携が大切である。

● 地域の病院の先生方へ

当院では、転移性腫瘍の患者の治療は最終的に腫瘍内科が担当する機会が多いので、診断が確定してなくてもよいので、是非、直接腫瘍内科に紹介して下さい。副作用対策や進行癌に伴う合併症を含めた支持療法について総合的に対応しますので、是非、紹介または相談して下さい。

講演 1 当院における病診連携におけるがん診療

長崎医院 院長 長崎 裕 先生

● がん診療の病診連携において地域の医院として大切なポイント（関わった4症例を通じて）

- ・スクリーニング：早期に腫瘍性疾患に気づくことが肝要であるが、どこまでスクリーニング検査をするかは悩みどころである。
- ・精査：紹介に足る情報収集、より迅速な治療に結びつく情報収集を行う。
- ・紹介：適切な紹介先の選択と情報提供を行う。分からないときは電話で相談し、地域連携室等を利用する。
- ・経過観察：日常診療、がん治療の後遺障害やメンタルケア、家族への対応、終末期医療を行う。



● 開業医としてのスタンス

専門診療の隙間におとすことなく責任を持って患者さんの問題に対応することを心がけている。患者さんを時間的、空間的に連続性をもってとらえて健康問題に対処するコンシェルジュを目指している。

講演 2 当院における病病連携によるがん診療

内科 佐藤病院 病院長 佐藤 俊哉 先生

● 佐藤病院におけるがん診療

肝臓がんのマネジメントや血液腫瘍の治療を行うほか、緩和治療の患者を多くうけいれている。限られた命を有効に使うため、QOLをよく過ごすためにはどうしたら良いかを考えながら診療している。病院だけでなく、法人として在宅ケアの事業所も運営しており、「日本一、やさしい法人」をモットーに、介護も含めた幅広い医療を提供している。

● リハビリテーションの重要性

一般病棟の他に回復期リハビリテーション病棟も開設しており、多くの病院と連携をとりながら積極的にリハビリテーションを行っている。がん患者のリハビリテーションにも力をいれている。専門のセラピストによるリハビリテーションを適切に行うことで、がんそのものやがんの治療によるADLの低下を軽減することができる。また、末期がんであっても退院して在宅で過ごすことが可能となる。



ディスカッション

- Q** 腫瘍内科以外でいろいろと治療された方でも、まだ治療したいとの希望がある場合、腫瘍内科に紹介してもいいのでしょうか。
- A** 最近は大きな病院では複数診療科による横断的なカンファレンスが行われており、そのような状況で別の治療を提案できる症例は少なくなってきた印象はあります。しかし、私達は進行がんに合併する支持療法や精神的なケアなども得意としておりますので、複雑なケースでも協力できることはあるかと思えます。是非、紹介して下さい。

Closing remarks

東北大学病院 腫瘍内科 教授（科長） 石岡千加史

お忙しい中、皆様に参加いただき、大変有意義な病診連携、病病連携の会となりました。まだまだ、地域の医療機関の先生方には腫瘍内科の認知度が低い現状ではありますが、宮城県では全国でも珍しく全てのがん拠点病院に腫瘍内科が配置されております。医師会の先生方の御指導御鞭撻を賜りながら県内のがん診療を活性化していきたいと考えておりますので、引き続き宜しく願い申し上げます。



東北大学病院 腫瘍内科

私たちは「がん診療」の専門家です。
がん患者さんについてご相談ください。

TEL. 022-717-8547 (医局)

022-717-7879 (外来)

FAX. 022-717-8548  dco@idac.tohoku.ac.jp